

令和3年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 曾於地区農業青年クラブ連絡協議会

1 目的

鹿児島県曾於地域は、温暖な気候と広大な畑地を生かした県内有数のさつまいも産地である。近年、サツマイモ基腐病の甚大な拡がりによる減収や新型コロナウイルス等の影響による焼酎の需要縮小などにより、作付面積や生産者は減少傾向にある。サツマイモ基腐病は防除技術や発生要因等不明な点が多いため、多くの優良事例等を情報共有し、相互検討を図る必要がある。

そこで、さつまいも生産者が多く加入する曾於地区農業青年クラブ連絡協議会で、クラブ員が一体となって生産性向上・産地維持に向け基腐病対策を中心とした新技術導入実証活動やスマート技術を用いた情報共有等のプロジェクト活動を行うこととした。

2 実施状況

(1) 農作業管理システム(アグリノート)による情報共有

1) 取組内容

農業青年10名で「基腐病研究会」を立ち上げ、共同プロジェクトを実行した。青年が各自のテーマで試験を行い、ほ場の位置や試験内容等を各自の防除対策、作業記録、病害発生状況をクラウド型の生産工程管理システム(アグリノート)に登録した。

2) 達成状況

「基腐病研究会」では、青年10名が計19ほ場で各自の試験に取り組み、アグリノートには192件の記録(12月13日現在)が登録され互いの栽培方法や被害状況等についてリアルタイムでの情報の共有ができた。

3) 対象の変化

基腐病研究会ではアグリノートや実績検討会で情報共有をすることで、課題解決に対する意欲が高まった。12月15日には実績検討会を行い、青年農業者同士の意見交換の活性化や課題解決意識の向上に繋がった。

(2) 種イモの発病リスク軽減技術の実証

1) 実証目的

サツマイモ基腐病対策として、試験研究機関で開発された健全苗生産に向けた種イモ確保のための管理技術検討(種イモ薬剤処理)を行った。

2) 場所：曾於市末吉町南之郷(11月4日)

3) 実証概要

- ①慣行(トップジンM水和剤による伏込前処理)
- ②新技術1(トップジンM水和剤での貯蔵前処理)
- ③新技術2(ベンレート水和剤での貯蔵前処理)

4) 実証結果概要

上記①～③の薬剤処理後に貯蔵約50日後、伏込前の調査を行った結果、慣行と新技術1、2の処理ともに基腐病以外も含めた腐敗イモ率が高く、明確な差が、見られなかった。今後の課題となるが、収穫後から処理までの期間、貯蔵状態等の影響が考えられた。

(3) 健全苗確保技術向上への取り組み

青年6名でバスアミド微粒剤での育苗床の消毒を行ったハウスで種イモ消毒をした芋を伏せ込み、生育状況(品種:コガネセンガン)を育苗終了まで調査・記録し、前年度と比較検討をすることで技術向上を図っていく取り組みを行っている。

3 今後の課題、取り組み

- (1)基腐病研究会の活動継続、メンバーを増やす。
- (2)共同試験を行う等、活動の幅を広げる。
- (3)新技術を積極的に取り組む。

■ 収穫
09月22日(水) 編集 削除

メモ

昨年よりは基腐れが少なかった。
長雨、大雨で排水側の土手が崩れた。
収量はフレコン25本
3トン以上は確保できました。
基腐れは発生していました。
昨年より早植えで早期収穫でした!

写真



アグリノートの記録(例)



青年共同プロジェクト実績検討会



種芋消毒共同作業